

図書館だより

開館時間（共通）9：00～17：30

☎ 中央図書館 ☎ 0558-76-5566

☎ 葦山図書館 ☎ 055-949-8605

URL <http://www.izunokuni.library-town.com/>



今月のおすすめ

一般

【葦山】



アクティベーター
沖方丁／著
集英社

羽田空港に突如飛来したステルス爆撃機。女性パイロットは、核兵器を積んでいると告げる。テロか宣戦布告か。展開予測不能の国際サスペンス。

一般

【中央】



小説秋月鶴山 —上杉鷹山がもっとも尊敬した兄
童門冬二／著
PHP研究所

「下意上達」の組織作り、世界初の児童手当、理想の藩校の創設。高鍋藩第七代藩主の生涯を描きながら、「自治体小説」として、トップと補佐層、現場の役割を提示する。

一般

【葦山】



そこに工場があるかぎり
小川洋子／著
集英社

競技用ボート、ベビーカー、大人の色鉛筆。日本の繊細でユニークなもののづくりの愛おしさと本質、携わる人々の思いを伝える珠玉の工場見学エッセイ。全6社の訪問記。

児童

【中央】



海をこえて虫フレンズ
吉野万理子／作
講談社

もしもヘラクレスオオカブトを公園で逃がしてしまったら大問題。それはどうして？ 蝶が好きな小学5年生の心愛とクラスの子博士・ジンの、SDGsがよくわかる物語。

新着本コーナーから

一般

一般

一般

一般

一般

一般

一般

一般

鼠、十手を預かる

ばあさんは15歳

ははのれんあい

国道食堂 2nd season

あなたがはいというから

ヘルメースの審判

おじさんは、地味な資格で稼いでく。

赤川次郎／著 【葦山】

阿川佐和子／著 【葦山】

窪美澄／著 【葦山】

小路幸也／著 【中央】

谷川直子／著 【中央】

楢周平／著 【中央】

佐藤敦規／著 【中央】

4月の図書館カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	⑤	6	7	8	9	⑩
11	⑫	13	14	15	16	17
18	⑲	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

○中央休館日 □葦山休館日
◇両館休館日 ☆おはなし会

4月のおはなし会

中央図書館 10日（土）11：00～
葦山図書館 10日（土）14：00～
24日（土）14：00～
○感染防止対策を施したうえで実施します。

お知らせ

ゴールデンウィークは図書館へ!!

祝日も、中央、葦山いずれかの館を開館します。
5月5日は水曜日ですが、葦山図書館が開館となります。ご注意ください。
5月初めは次の館が開館します。

1日（土）、2日（日）：両館
3日（月）：葦山
4日（火）：中央
5日（水）：葦山
6日（木）：中央
7日（金）～9日（日）：両館

ぜひ、ご利用ください。

文化財通信

その190

伊豆の国市からはじまる北条義時の足跡

第4回 北条義時はどんな人？ その3

〔義時の生涯／後半期〕

☎ 文化財課 ☎ 055-948-1428



清泉小学校（鎌倉市）に建つ「大倉幕府旧跡」の碑

北条義時の2つ目の転換期、それは正治元年（1199）、頼朝の突然の死でした。落馬が原因という説が有名ですが、詳しいことは『吾妻鏡』にも記載がなく、謎にまつまれています。

頼朝の子、頼家が2代將軍になりました。頼家はまだ若く、父頼朝のようには確かな政治方針を示すことも、御家人たちをまとめることもできません。そこで、重臣たちは会議によって幕府を運営していくことにしました。メンバーは13人で、歴史上「十三人の合議制」と呼ばれています。つまり、これが大河ドラマのタイトル「鎌倉殿の13人」なのです。13人のメンバーは、北条時政をはじめ、三浦義澄、和田義盛、安達盛長など旗揚げ以来の武士や、大江広元、三善康信など実務官僚です。そして、義時は最年少の37歳で、このメンバーとなりました。

ここで、義時は鎌倉のどこに住んでいたのでしょうか。『吾妻鏡』の記述からは、「大倉亭」と「小町亭」の2つの館があったことがわかります。大倉は鶴岡八幡宮の東側で、將軍の御所や侍所など幕府の中核施設があった場所です。義時の屋敷は將軍の住まいのすぐ近くにあったのでしょう。「小町亭」は、そこよりもやや南、現在の宝戒寺付近と言われています。

將軍になつてわずか4年、頼家は重病になり、將軍を辞めさせられた上、修善寺に幽閉され、非業の死をとげます。後を継ぐ3代目の將軍は弟の実朝です。わずか12歳の幼い將軍です。義時は、父時政、姉政子とともに実朝を支え、幕府で次第に重きをなしていきました。そして43歳の時、時政を陰謀の罪で伊豆に隠退させ、名実ともに北条家の嫡流、幕府の実質的な執権として歴史の表舞台に立ったのです。

さて、義時59歳の時、3つ目の転換期が訪れます。承久3年（1221）に起こった承久の乱です。

その2年前、実朝が頼家の子公暁によって暗殺されたという事件が起きました。將軍不在となった鎌倉幕府は大いに揺らいでいました。この機会に、京都にいる後鳥羽上皇が幕府の力を弱めようと、畿内の武士を集め、「義時追討」（義時討つべし）という命令を発します。追討命令が義時あてということは、上皇や公家たちが、幕府の中心が義時であると認識していたことをあらわしています。

天皇・上皇を相手に戦うことに対し、鎌倉の御家人たちは躊躇したにちがありません。しかし、この時、北条政子の「頼朝公の恩は山よりも高く、海よりも深い。今こそ源氏三代の遺産、鎌倉を守る時です。」という有名な演説がありました。御家人たちの心は1つにまとまりました。義時は鎌倉に留まりましたが、子の泰時が先発となり、19万騎の大軍で京都を攻め、この戦いは鎌倉方の勝利となりました。

その結果、後鳥羽上皇はじめ3上皇は京都を追われ島流しとなりました。また、この戦いによって、上皇や公家の土地が幕府の支配下に置かれ、京都より西の地方まで幕府の力が及ぶようになりました。

承久の乱から3年後、元仁元年（1224）6月13日、義時は62歳で波乱に満ちた生涯を閉じました。